

# 白梅レター



## 年頭のごあいさつ

理事長 箕口雅博

謹んで新春のお慶びを申しあげます。

昨年は、コロナ禍に翻弄された1年でした。

今年に入ってから爆発的感染拡大にともない、偏見と分断という危機を

のりこえる処方箋として、「離れてつながる」あらたなライフスタイル

(三密回避、ソーシャルディスタンス、リモートワーク・会議、オンライン授業・

講座など)が私たちに求められています。

一方で、介護・福祉・医療という現場で支援に携わるエッセンシャルワーカーと

呼ばれる人びとは、「離れてつながることが難しい状況のなかで、日々格闘されています。

白梅会の各事業所でも、とりわけ職員の皆さまは、最大限の感染拡大防止策をとり、

電話による健康状態の確認・作業所の三密回避など、多様な方法を工夫しながら、

利用者様の支援を進めています。

あらためて、その真摯で丁寧な取り組みに感謝いたします。

コロナ禍という分断と偏見を生み出す全世界的・人類的危機に、私たちがこれから

どのように対応していくのかを考えると、アルフレッド・アドラー(オーストリアの

精神科医・心理学者)の提起した

「共同体感覚(他者への関心を持ち、他者に貢献していこう、他者と仲間になって

いこう)の育成」

および、ユヴァル・ノア・ハラリ氏(ヘブライ大学教授・歴史学者)の提言

「最大の敵はウイルスではない。敵は心の中にある悪魔です。憎しみ、強欲さ、無知。

この悪魔に心に乗っ取られると、人々は互いを憎み合い、感染をめぐって少数者を

非難し始める。しかし、我々はそれを防ぐことができます。この危機のさなか、

憎しみより連帯を示すのです」

というキーワードを心に刻んで、あらたなライフスタイルの形成と支援活動に取り

組んでいきたいと考えます。

一緒に力を合わせて、安心・安全な一年を創っていきましょう。

# インタビュー ～皆さん、最近どうですか～

インタビュー日時：2020年12月  
聞き手：小野崎、高瀬

前回発行した「しらうめレター7月号」から約半年。

1回目の緊急事態宣言で通所サービスを休止し、

グループホームの交流室を閉室しました。

宣言の解除後に通所・交流室を再開。

そして、第2波、3波が到来し、2回目の緊急事態宣言へ。

そんな状況の中、各事業所の様子をインタビューしてきました。

皆さん、最近どうですか。

## ◆利用者さんの様子はいかがですか。



### <童里夢工房（就労継続支援B型）>

半年前と比べて、大きい変化はありません。

利用者さんも、少しずつコロナウイルスを受け

入れることができ、不安は少ないように感じています。

また、4、5月に通所サービスを休止した後、6月に

通所を再開した時は「コロナウイルスへの不安より、

通所する楽しみの方が大きい」との声もありました。

### <梅の木の家共同作業所（就労継続支援B型）>

コロナウイルスを気にされてお休みされた利用者さんもいましたが、今は通所して作業をされています。

朝礼時に顔を合わせ、あいさつができることに、ホッとしています。

### <レスポワール工房（就労継続支援B型・就労移行支援・就労定着支援）>

4月、5月の通所サービスの休止により、利用者さんは長い時間自宅で過ごされたので、通所再開時

に来所してもらえるかどうか心配でした。ですが、想像以上に皆さんに来所していただき、元気な

顔を見せていただけたので、ひと安心しました。その後も様々なコロナ対応にご協力して頂いた事

もあって少し疲れが見える部分もありましたが、現在では比較的安定されています。

### <グループホームみち（共同生活援助）>

コロナ禍で、利用者さんの中にはテレワークで働く人もいましたが、日中の活動場所がなくなって

自室にずっとこもったままの方もいらっしゃいました。自室で過ごすことが合う人・合わない人、

はっきりとした印象です。現在でも引き続きテレワークをしている方もいらっしゃいますが、幸い

部屋にこもりきりという方はいらっしゃいません。



## ◆作業はいかがですか。



### <梅の木の家共同作業所>

作業の受注を一部お断りしていました。通所サービス再開当初はコロナウイルスの影響でイベントが中止になり、ダイレクトメールの封入作業も少なかったです。

その後徐々に利用者さんの通所も増え、作業の依頼も増えた為、見通しを立て作業量を増やしていきました。

### <童里夢工房>

定期的な作業を1件行っていますが、コロナウイルスの影響はなく安定して作業をしています。自主製品の藍染ではコロナウイルスのことを考えて、手ぬぐいマスクの作製を行っています。今は、販売会が難しかったため、童里夢工房の玄関前で販売しています。



## ◆就職活動はいかがですか。

### <レスポワール工房>

就職活動という面では、コロナ禍で求人は減り、特に4~6月は厳しい状況にありました。合同面接会や実習、見学もできない状態が続いていました。

とりわけ合同面接会などは都心で行うことが多いので、やはり今も不安が残ります。

秋ごろからは、また徐々に求人が出始めたため、皆さん懸命に活動されているところです。施設としては、オンライン面接に対応するため、準備なども行いました。

## ◆グループホームでの生活はいかがですか。

### <グループホームみち>

半年前の交流室の閉鎖により、普段お喋りなどを楽しんでいた利用者さんは、ストレスの吐き出し口がなくなっていました。

それに加え、コロナ禍で外出もままならず、日中活動の場がなくなり、部屋にこもってしまう場面などがありました。



## ◆行事・イベントはいかがですか。



### <童里夢工房>

日帰り旅行や納涼会といった飲食を伴う行事・イベントは中止となりました。代替えとして、利用者さんが主となり企画した「スマホ教室・Zoomの使い方・トランプ」を行いました。

クリスマス会ではライブの生配信を行いました。今後も楽しいことを利用者さんと一緒に考えていきたいです。

### <梅の木の家共同作業所>

ほとんどの行事・イベントは中止となりました。感染が再拡大する前は、お弁当を注文したり、他の作業所のパンを注文したりして、施設内でみんなで一緒に食べる昼食会は好評でした。現在は感染拡大を防ぐため、昼食会の開催はなくなりましたが、今後何か別のものでも利用者さんに還元したいと考えています。

### <レスポワール工房>

日帰り旅行など予定していた行事・イベントが行えない代わりに、施設内で映画を見たり、ジェンガで遊んだり、公園ではバドミントンやフリスビー、おやつに中華まんを食べたりと色々工夫しながら活動しています。

また、体育館を利用した運動プログラムは中止となっているため、ウォーキングを行い古墳や府中公園まで歩いたりもしています。



### <グループホームみち>

行事・イベントは、ほとんどなくなってしまいました。冬にイルミネーションを見に行ったのですが、やはり人手も多く危ないと感じました。

不特定多数の方との接触を減らすためにも、次は首都高を利用したドライブレクなどを考えています。